

令和元年7月1日

教育指導課長 殿

令和元年度 教科書展示会実施報告

真砂中央図書館

館長 川崎 慎一郎

(公印省略)

このことについて、教科書展示会（特別・法定）の実施結果を下記のとおり報告する。

記

- 1 開催期間 ①特別展示会 令和元年6月 3日（月）～6月13日（木）10日間
②法定展示会 令和元年6月14日（金）～6月29日（土）14日間
※ ただし、休館日を除く。
- 2 展示時間：午前9時～午後5時
- 3 場 所：小石川図書館
- 4 展示教科書：各教科書目録（令和2年度使用）に登載されている、小・中・高等・特別支援学校用教科書
- 5 実施結果：（1）意見票数 16名
（2）内訳 区民16名
- 6 区民意見
 - ・社会科教科書の中に歴史ジャンルで「ヤマトタケルノミコト」が囲みでのっています。古事記、日本書紀に書かれたもので「神話」であり、歴史を学ぶにはふさわしくないと思います。このような記述のある教科書は採択しないでください。
 - ・「わたしたちのほけん」3・4年、5・6年 タバコや飲酒の害、食事や睡眠・運動・体力のことなど、大事なことはしっかり時間をとって教科書を基本に教えていただきたい。
 - ・英語（啓林館）5年6年 ほとんど英会話、タンゴ、イラストで示している。単語の数も多く、これだけ覚えるのはとても負担が大きい。それより、他の教科の基礎をしっかり時間をとってほしい。中学校からだ文法の基礎を学び、母国語（日本語）との違いを比べながら学ぶことができると思います。

- ・道徳 あかつき 別冊道徳ノート（5年） 大人が読んでもきゅうくつで押しつけられている感じ。正しい答えを頭で考えて導き出す方向で子どもの心が育つのでしょうか。このような自己評価のページが多い教科書は選ばないでください。
- ・なぜ国語の教科書は光村図書でないのか分からない。教材の質は光村図書が高く、今回の教科書でもこれからの子どもたちに必要な社会との関わり、プログラミング教育、リーダー育成のためにも必要な他者とのコミュニケーションを図るための考え方などを、池上彰、鴻上尚史といった著名人の視点から話す教材を導入しており、今後の教育に必要な要素を盛り込んだ教材を掲載している。
また、児童が作品のよさを楽しむという点においても、違いが見られる教材として「大造じいさんとガン」が挙げられる。前回からの改善が見られるかと、新しい教育出版の教科書を拝見したが、今と変わらず、全文掲載ではなかった。これでは、この素晴らしい作品の魅力を最大限伝えることができず、児童が誤った認識のまま教材を読み終えてしまう危険性を孕んでいる。理由を挙げればきりが無いが、児童が国語を学ぶ際に親しみをもち学びに向かい、確かな力を定着させるためには、光村図書を採用すべきである。
- ・東京書籍 この会社だけサイズが大きすぎる。机の上で教科書を広げるとノートが開けない。机の中の道具箱にも入らないのでは。うちの子はハウスダストのアレルギーをもっており、5年生の P23 ではアスベスト今夕の可能性を否定できないバーミキュライトを使用している問題があると思います。
5年 P130 の授乳の写真不適切だと思います。学習上必要なものかと思わないです。性的にも不快な思いをする。
その他、安全面への配慮が足りないと思います。4年 P150 では保護メガネをつけなければいけないのでは。
- ・東京書籍の社会科は採択するな。権利と義務の記述に無理がある。自衛隊の記述が多い。君が代の扱が多い。
- ・東京書籍社会6年の基本的人権の尊重部分の記述の「権利」と「義務」をセットにして書くのは間違いである。
- ・大きさがランドセルぎりぎりと思う教科書が以前に増して多くなったと思う。自宅で学習するニーズもある。学年が低い子どものことも考えて採択願いたい。
- ・外国語は、教科書会社によって読み書きと音声のどちらかにウエイトを置いているかがあらわれているように思う。
- ・実生活と結び付きのある内容を扱った教科書がよい。
- ・以前、小学校で音楽の教員をしておりました。音楽教科書2社を見せていただきました。今回の2社の教科書を比べると圧倒的に教育出版の編集の方がよいと感じました。共通教材の写真が折り込みページになっておりすばらしい。歌詞にあるそのままの写真を載せることで、子どもたちが目にしたことのない風景を目にすることにより、イメージも広がりよい。5年オーケストラの学期位置が透明シートの活用でより分かりやすい。 等々
以前は、教育芸術社の編集に一日の疍があると思っていましたが、今回はむしろ、恐育芸術社が教育出版の編集を真似てきた、似せてきた感じがしました。
- ・娘の使っている音楽の教科書を拝見し、新しい教科書の展示を行うことを知り見に来ました。現在使用している娘の教科書も私の時とは違い、カラフルで見やすくなった

と感じましたが、今回のものは、見やすくなっていると感じます。もう一社のものと比べてみてみましたが、写真一つにしても折り畳み式になっているのに比べ、なっていないなかったり、ちゃんと意味を説明できるように大きな範囲の写真を使っているのに対し、そのものだけを大きく上げていただけだったりと少し見劣りする内容だったと思います。見た目だけではないと思いますが、そのような見方で選んでもらえばよいと思います。

- ・文京区で採択の「ひろがる言葉」は、教えやすく情報の幅もあり、よい。4年生の「分類をもとに本を見つける」で、せっかく分類を教えているのに、文京区の図書館はどこもひらがなや漢字のシールを貼っていて、かえって子どもが探しにくい。教科書を参考に改善していただきたい。

- ・小学「どうとく」を見て

比較するものではないけれど、7社のうちでは光村図書が開いて心によゆうを感じる紙の質、色、絵もよい。開いてみてまず関心もてる。考えたり、話し合ったりする材料として、日常的な場面が提示されているのがよい。良い、悪い、好き、嫌いで物事を決めつけず、きれいごとの解決を提示していない。豊かな情操を育てるなら、自分の境遇が環境にあった率直な態度や言葉で自分を表現できる場があったほうがよい。きれいごとや形だけでは、開いただけで胸がふさがる感じを受ける。

- ・教育出版の「小学道徳 はばたこう明日へ」が道徳の教科書の中では、一番素晴らしかった。

AB判で文字も絵もとてもきれいにデザインされており、ページ数も適切で各学年とも児童にとってちょうどよい重さでランドセルに入れても負担がないと思われる。教育出版の国語の教科書が文京区では使用されているが、国語と道徳は同じデザイン事務所なので、両教科書とも縦書きの教科書としてとても読みやすい。文字のデザインや色づかいも、弱視や色弱の児童にも配慮されているので、目が疲れることなく読むことができた。

国語と道徳は親和性の高い教科で、学習の仕方も他教科よりも類似する点が多いので、教科書はそろえたほうがよいと思う。

ちなみに、中学校の道徳は、教育出版の教科書なので、心を育むという大切な教科にあっては、特に、小学校1年から中学校3年まで系統的に同じ教科書で学習するほうが無駄もなく、効果的な学習ができると考えられる。特に1週間しかない道徳の授業では、義務教育9年間で筋の通った学習がより求められるものと考えられる。

各学年とも目次の後に、「道徳ではこんな学習をするよ」があり、1時間の授業の流れ（気づく→考える→深める→つなげる）を図解で示しており、児童も保護者も、道徳の授業で何をどのように学ぶのか、見通しをもって準備できるのがすばらしい。しかもこの授業の流れは、教材分の導入（気づく）や、学びの手引き（考えよう→深めよう→つなげよう）と連動していて教材全体が構成されているところがとてもよい。

いじめや生命尊重、情報モラルなど、今の児童にとって大切な内容を重要視している点がすばらしい。モラルスキルトレーニングのように、身近な話題を児童同士で疑似体験しながら、よりよい生き方を考えていくのも、実生活に生きるとても大切な学習だと思う。

教材で取り上げられている人物も長嶋茂雄、サトウハチロー、新渡戸稲造、梶田隆幸、根岸英一、野口英世、徳川家康など、文京区にもゆかりのある人物が多く、親しみを

もって学習ができると思われる。

表紙も播磨坂の桜（1年）や文京あじさい祭り（2年）、小石川植物園（4年）、緑の多い文京区の地域（3年）をイメージさせるようで、子どもたちも元気いっぱい文京区の子どもの姿のようである。

- プログラミング教育が新しく入るとのこと、見に来ました。東京書籍、大日本図書、啓林館は体験例が入っており分かりやすかったです。
学校図書、教育出版はソフトの紹介やHPの紹介という感じでした。センサーは使わなくとも、特に問題はないのでしょうか。新しい学習内容なので、入試にも出てくるかもしれません。その時に不利にならない教科書を選んで欲しいです。また、どの地区に行っても、プログラミングをやったやっていないという差がでない指導を教育委員会の方でやって欲しいと感じました。
東京書籍の本が大きかったのですが、現場の声はいかがでしょうか。お聞かせいただきたいです。
- 教科書にQRコードが載っており、従来の使い方に合わせた新たな方向性が期待されます。区内小学校ではICT、の環境も整備されているので、授業で活用されるものと思います。出版社によって掲載の量、場所に違いがあるのはなぜでしょうか。検定に左右されないのであれば、積極的に掲載すべきだなと感じました。また、QRの内容と期待される学習効果、授業中、家庭学習、さまざまな場面で使用する想定など、教育委員会をはじめ、学校現場にてしっかりと調べてほしいと思います。
- 道徳の教科化に伴って、教育出版が安倍首相の写真を取り上げて大きな声となった。今回の教科書では、掲載されていないようで、一定区民の声が聞き入れたと感じた。だが東京書籍の教科書に新たに取上げられている。なぜこのような写真を使うのか理由が分からない。選ぶ人間にしっかりと見ていただいて判断して欲しいと思う。
- 昨年、同じ保育園のお母さんに教えてもらい、啓林館さんの会社であったイベントに参加して、初めて教科書をつくる出版社であることを知りました。他にも何社かあることを知り、教科書の展示に興味を持ってみました。どの会社もさまざまな工夫をしており、楽しく見させてもらいました。娘は区内の小学校に通うことになるので、よりよい教科書づくりを期待します。
- 40年近く中学生に接してきました。日本語（国語）がしっかりと話せない、書けない、読めない生徒もいました。日本語をかなり身に付けていないと小5、小6の教科書の英文についていけないと思います。
- 東京書籍 社会科6年の教科書について。14～15頁「権利と義務」の記述が非常に問題であると感じます。「さまざまな国民の権利を保障しています。また憲法には国民が果たさなければならない義務についても定められています」とか「権利と義務には、どのようなつながりがあるのかな」などと権利・義務をワンセットにして書かれています。そもそも基本的な人権は生まれながら誰もが持っているものであり、義務を果たさなければ認められないものではないはずです。たとえば税金を納めることができない人は権利が認められないのでしょうか。このような誤解を抱かせる記述の教科書は採択しないで下さい。同様の記述は東京書籍の道徳5年65頁前後にもあり、問題です。権利の説明を「法」「きまり」のくくりではなく、人権の視点から理解させるようにして下さい。社会科の人権の項目では、「人権はこんな内容です」とか「障害のある人に優しくしよう」と教える前に、あなた自身が基本的な人権の主体であり、素

晴らしい存在なのだと教えてあげてください。そういう点からも東京書籍の「権利と義務」がセットのような制限付きの権利である記述はそもそも人権意識を育むには、ふさわしくありません。○展示会の会場をもっと増やして下さい。湯島、小石川の地域だけでは十分に区民に開かれているとは思えません。

- ・小学校道徳教科書について

まず初めに申し上げたいのは、「道徳」は学問たり得ず。そういう性質のものを教科書化する子どもたちを1つの型にはめこむことにつながり、子どもたちの心を評価するのは、思想良心の自由を保障する憲法に違反しているということです。それを踏まえた上で、なるべく子どもたちの多様な考えを認め、ひきだそうとする姿勢の教科書、先生たちがそれぞれの個性で創意工夫できる余地のある教科書、特定の価値観を押し付けようとしていない教科書を採択して頂きたいと思っています。

具体的には、やはり「光村」が突出してよいと思いました。言葉の選び方にも配慮が感じられ押し付けがましさがありません。逆に、東京書籍、教育出版、廣済堂あかつきは、愛国心や戦前のような価値観の押し付けが感じられ、不快に思いました。ルールとは、自分達で作っていくものでもあるはずですが、一方的に「守れ」というのは、人権教育の薄さが露呈しています。

- ・子どもたちがどのような教科書を使って学ぶかは、とても大事な事です。ぜひとも、保護者の意見を汲み取っていただきたいです。意見がたくさんありましたので、別紙添付しました。どうぞよろしく願いいたします。

(別紙)

いつも区民のためにご尽力いただき、ありがとうございます。

教科書の内容の前に

- ・教科書展示会ですが、区内2ヶ所がけの展示では、なかなか足を運ぶことができない人もいるのではないのでしょうか。今度は展示場所を増やしていただきたいです。
- ・展示会の前に、小学校の教員たちが教科書を見ていると思います。2冊を区内で回していると思うのですが、ただでさえ先生方の働き方が問題視されている中、たった2冊を期間限定で巡回して、どのくらい内容をチェックできるのでしょうか。どのような教科書を使うか(採択するか)は、子どもたちの未来に大きく関わることでありますので、十分に検討できるだけの時間が必要だと思います。
- ・前回の道徳の教科書採択の時も、展示会へ足を運び、意見を書きましたが、採択の結果、その意見が反映されていたとは思えませんでした。保護者の意見をもっと反映してください。

以下、教科書についての意見

〈社会〉

教育出版が良いと思いました。ただしすごくいいわけではなく、他の2社と比べたらまだマシのレベル。そもそも明治の美化が目立つのが気になります。

- ・基本的人権(とても大事なこと)

教育出版は詳しく書いている。東京書籍は「権利と義務」をセットに書いている。そもそもこの二つがセットはおかしい。

- ・平和主義

教育出版は15年にわたる長い戦争で日本の被害だけでなく、アジアなどへ大きな損害

を与えたことを書いているから良い。東京書籍はより積極的に活動することを国際社会が期待していると書いているが、具体的に何が積極的な活動かは書いていない。日本文教出版は自衛隊の記述がない。

- ・領土問題

教育出版は他の2社に比べて2ページにわたり説明している。

- ・大日本帝国憲法

教育出版は五市憲法と比べる課題があり良い。3社とも主権が天皇にあることははっきりとさせているが、国民の権利が制限されていたことは書いていない。

- ・日露戦争

3社とも「君死にたもうことなかれ」を載せているが、その説明ができる先生がいるのか。日本の勝利がアジアの人々を勇気づけたなどと書くのは問題。東京書籍は戦争に反対する人がいたことを書いていない。日本文教は朝鮮や中国を下に見る意識の広がりを書いていない。

- ・これからの日本

3社とも最後に領土問題を持ってきている。これは周辺の国々との対立をことさら強調することであり、子どもたちが平和な将来を生きるための正しい方向ではない。とても問題。本来、過去の過ちを改め、未来にどう向かっていくのか希望を持っていくような内容にしないとイケない。平和、民主主義など。

〈道徳〉

道徳の教科化は始まってしまいましたが、そもそも心の内面を評価することが必要なのか疑問ですし、とても不安です。これで「いじめ」がなくなるとは到底思えません。憲法を尊重し、平和と人権を大切にす道徳が身につく教科書を選んでいただきたいです。多様な意見があることを認め、答えを出す（そもそも答えはない）、一つの価値観を押し付けるような授業はしないでください。「基準を設けず、大きくくりなまとまりで子どもを個人内記述式評価を」という文科省の見解に沿ってください。その観点から光村と学研がまだ良いと思いました。自己評価がある教科書は選ばないでください。東京書籍は4種類も書き込むところがありNG。

〈保健体育〉

エイズのことを書いてある教科書があるが（それ自体はいいこと。どこの出版社かわからない）、感染ルートが「血液」としか書いていない。1社だけ「血液と精液」と書いてあるが、説明不足である。人権の意味からも「性教育」は重要なのに、きちんと教えないことに甚だ疑問です。昨今性被害、性暴力、性虐待など子どもたちが被害者にも加害者にもならないようにしないとイケないのではないのでしょうか。（寝た子はもういないです）

〈英語〉

英語教諭が少ないのにスタートした英語の授業、今度先生の確保が難しくなってくるのではないかと不安（すみません、教科書採択には直接関係ないですが）。

<中学校の教科書について>

来年度中学校の教科書採択だと思います。社会は育鵬社や自由社は採択しないでください。道徳は日本教科書、教育出版、あかつきは採択しないでください。